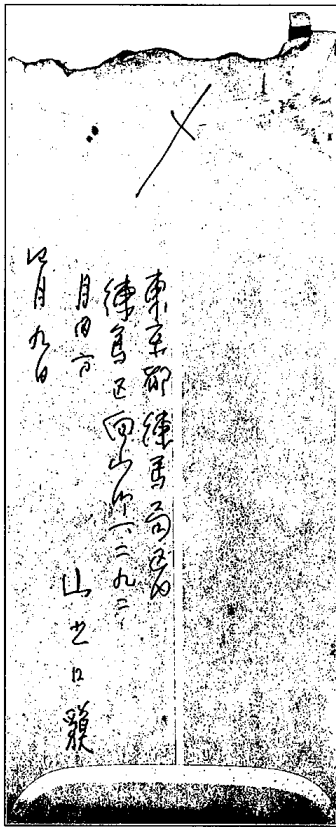
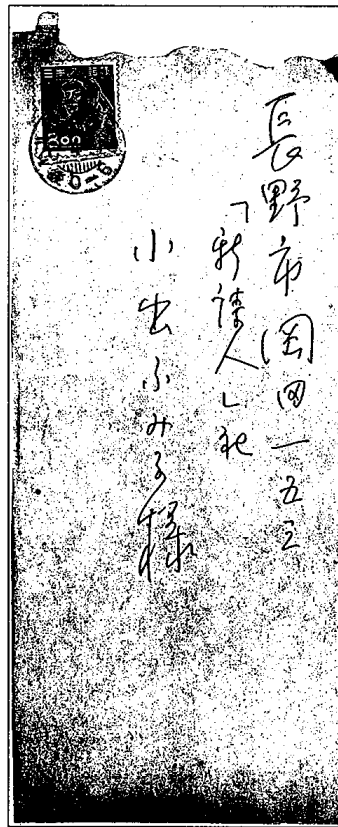


山之口貌書簡

唐井清六

本学附属図書館が所蔵する資料を翻刻紹介する。著作権者山口泉氏のご厚意に感謝したい。
なお、宛先人の小出ふみ子は長野出身の詩人（一九一三年～一九九四年）。詩誌『新詩人』を主宰して『花影抄』（一九四八年）、『都会への絶望』（一九五二年）、『花詩集』（一九五五年）などの詩集のほか、民話の絵本『はやたろう犬』（一九七一年）などの著作がある。一九五五年『花詩集』で第四回中日詩人賞を受賞。『新詩人』には中央で活躍する詩人の作品も掲載しており、この山之口貌の書簡もそうした一環のなかでの詩作の依頼への返事と考えられる。



一 昭和二十六年四月九日 小出ふみ子宛

（封書 二百字詰原稿用紙三枚 ペン書）

表 長野市岡田一五三 「新詩人」社

小出ふみ子様

裏 東京都練馬局区内練馬区向山町一、二九二

月田方 山之口貌

四月九日

消印 練馬26・4・10 後016

お	手	紙	を	い	た	ぎ	っ	放	し	に	し	て	今	更	御	返	事	
も	あ	り	ま	せ	ん	が	ま	っ	た	く	申	し	わ	け	も	あ	り	ま
さ	ぞ	御	仕	事	の	上	に	御	迷	惑	を	か	け	た	こ	と	存	じ
上	に	存	じ	上	に	存	じ	上	に	存	じ	上	に	存	じ	上	に	存
期	日	の	あ	る	原	稿	を	書	く	こ	と	に	自	信	が	な	い	上
の	と	こ	ろ	自	分	の	収	入	の	道	が	そ	れ	よ	り	外	に	は
ま	に	は	散	文	も	書	い	て	は	る	ま	す	が	そ	れ	も	年	
つ	で	あ	り	詩	の	方	も	ど	ん	な	に	努	力	し	て	み	ま	
生	の	力	の	限	界	は	年	に	三	篇	か	四	篇	ぐ	ら	る	の	

1

お手紙をいたゞきつ放しにして今更御返事

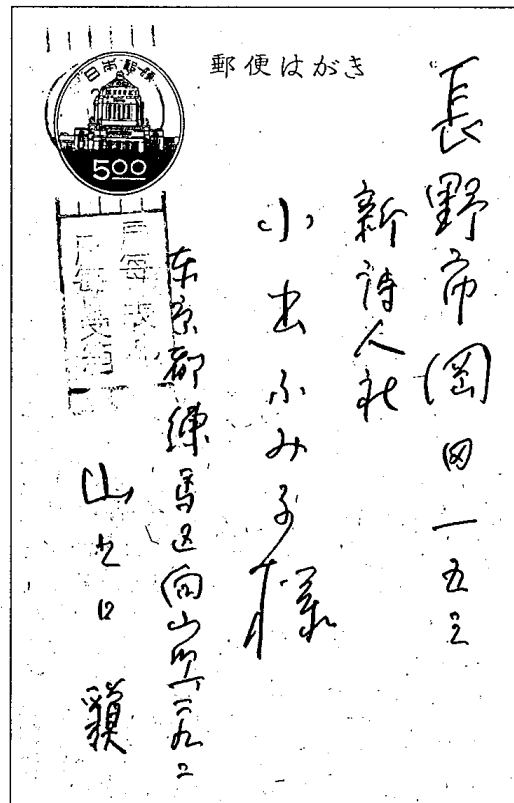
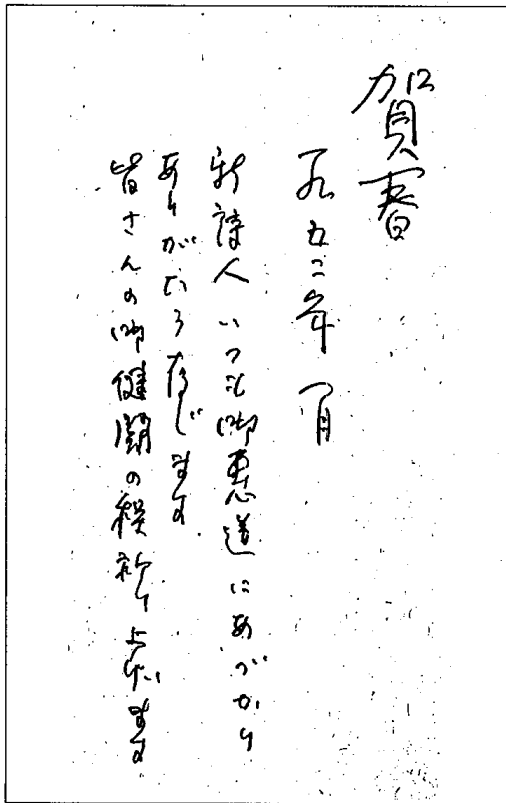
でもありませんが まったく申しわけもありません
 さぞ御仕事の上に御迷惑をかけたことゝ存じ上
 げます

実は、まことにお恥かしい次第ですが、
 期日のある原稿を書くことに自信がない上に、今
 のところ自分の収入の道がそれより外にはなくた
 まには散文も書いてはるますがそれも年に一つか二
 つであり詩の方もどんなに努力してみましても小
 生の力の限界は年に三篇か四篇ぐらゐるのもの

に過ぎない状態ですぐに事情申しあげて御	返事しなく二は取りませんとしたがそのまた返事	の書き方までかやまにはおまじしく大変失礼	なことになつてしまひましたそれに前々から	約束だけはおきながら未だに不義理をし	てゐる二三の詩誌に対する気持もあつたりして	お見逃がし願ふにはそれだけの事情をありのまゝ	申上げなくては御返事の書きやうもなく一々が	ペンを鈍らせてしまひました	お詫びの意味でやつとこの手紙を書かせてい
---------------------	------------------------	----------------------	----------------------	--------------------	-----------------------	------------------------	-----------------------	---------------	----------------------

2

に過ぎない状態で、すぐに事情申しあげて御返事しなくてはなりませんでしたが、そのまた返事の書き方までが小生にはむづかしく、大変失礼なことになつてしまひました。それに前々から約束だけはしておきながら未だに不義理をしてゐる二三の詩誌に対する気持もあつたりしてお見逃がし願ふにはそれだけの事情をありのまゝ申上げなくては御返事の書きやうもなく一々がペンを鈍らせてしまひました。お詫びの意味でやつとこの手紙を書かせてい



二 昭和二十七年一月十八日 小出ふみ子宛

(はがき ペン書)

表 長野市岡田一五三 新詩人社

小出ふみ子様

東京都練馬区向山町一、二九二

山之口猯

消印 27・1・18

賀春

一九五二年一月

新詩人いつも御恵送にあづかり

ありがたう存じます

皆さんの御健闘の程祈り上げます

郵便はがき

長野市岡田一五三

小出ふみ子様



御高著「都会への絶望」御惠送下
さいましたこと厚く御禮申し上げます
ますます御健筆の程祈り申し上げます

五月九日

東京都練馬区向山町一、二九二

山之口貌

三 昭和二十七年五月九日 小出ふみ子宛

(はがき ペン書)

表 長野市岡田一五三 小出ふみ子様

消印 27・5・9

御高著「都会への絶望」御惠送下
さいましたこと厚く御礼申し上げます
ますます御健筆の程祈り申し上げます

五月九日

東京都練馬区向山町一、二九二

山之口貌